

当代外语
研究论丛
FOREIGN
LANGUAGES
STUDIES

汉日语言中数及含数 四字成语对比研究

(日文版)

日中両言語における数字及び数字を含む
四字熟語の対照研究

李叶◎著



上海交通大学出版社
SHANGHAI JIAO TONG UNIVERSITY PRESS



李叶，辽宁鞍山人，现居上海。日语和计算机双学士，日本庆应大学计算机语言学硕士，日本关西外国语大学语言文化学博士。博士期间曾任日本关西外国语大学国际语言学部讲师，现任职于上海理工大学外语学院日语系和文学文化与区域国别研究所，主要研究方向为日本语言文化研究、翻译实践等。主编《日本语言文化教程》，参编《日本概况》《日本文化导读》《日本企业文化与实务》《职场日语》《致用日语听力教程》等高等院校日语教材；申请国家发明专利两项；多次获得国家及省部级日语演讲、作文等比赛优秀指导教师奖。

汉日语言中数及含数 四字成语对比研究

(日文版)

日中両言語における数字及び数字を含む
四字熟語の対照研究

李叶◎著



当代外语研究论丛

内容提要

本书运用语言学、认知语言学等观点对中日两国数字及含数字“一”至“十”的四字成语进行了对比研究。全书分为十三章,对数字的扩展义与含数字四字成语的比喻义是如何产生关联的,中日两国的历史、习惯、思维等文化因素是如何对含数字四字成语产生影响的,含数字四字成语是如何在文化中得以体现的等问题进行了探讨。本书的读者对象为日语中高级学者及相关研究人员。

图书在版编目(CIP)数据

汉日语言中数及含数四字成语对比研究:日文版 / 李叶著.

—上海:上海交通大学出版社,2019

ISBN 978-7-313-20598-8

I. ①汉… II. ①李… III. ①汉语-对比研究-日语-文集-日文 IV. ①H1-53②H36-53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2018)第 277445 号

汉日语言中数及含数四字成语对比研究(日文版)

著 者: 李 叶

出版发行: 上海交通大学出版社

地 址: 上海市番禺路 951 号

邮政编码: 200030

电 话: 021-64071208

印 刷: 江苏凤凰数码印务公司

经 销: 全国新华书店

开 本: 710mm×1000mm 1/16

印 张: 15.25

字 数: 301 千字

版 次: 2019 年 11 月第 1 版

印 次: 2019 年 11 月第 1 次印刷

书 号: ISBN 978-7-313-20598-8

定 价: 78.00 元

版权所有 侵权必究

告 读 者: 如发现本书有印装质量问题请与印刷厂质量科联系

联系电话: 025-83657309

序

李叶博士の『日中両言語における数字及び数字を含む四字熟語の対照研究』は彼女の博士論文を基礎にし、それを手直しして完成されたものである。博士論文は2年前の口頭試問の際、審査委員たち全員の好評を博した。その博士論文に手を加え本にまとめるに当たって、筆者が真面目で真剣に、努力を惜しまず各章節に対して逐一推敲を重ねた結果、本書は見事な出来栄となっている。彼女の論文の指導教官として、この本が上海交通大学出版社によって出版されることになるのを大変うれしく思う。

数字は言語の中で非常に活発な集団である。それははっきりとしており明瞭であるが、また奥深く限りがない。見た目は単純だが、内包は特別に豊かである。特に数字を含んだ熟語はそれが包含する文化的要素がよりきらびやかで多彩であり、目をとどめる暇もないほどである。日中両言語には数字及び数字を含む熟語の使用が非常に多く、日中の文明史はある意味で、真っ先に数字の文化史であると言える。この種の数字文化はかなり強い浸透性、交差性と融合性を持っており、日中の文化においてとても個性的な輝きを有しており、その他の多くの文化形態がすべてこのように光芒を放っているわけではない。一種特殊な文化的言語として、それは哲学、宗教、倫理、政治、軍事、文学、民俗などを含む日中の伝統文化における雅俗入り交った世相の経緯とさまざまな様態を反映しており、日中両国の数千年にもわたる文化の交流史の縮図であり描写である。

日中両国の言語の発展の中で、数字及び数字を含む熟語の意味的拡張と両国それぞれの歴史、習慣、思考などの文化的要素には内在的なつながりがある。人々は日常生活での成功した経験、失敗から得た教訓、科学的知識、文化的体験などを数字及び数字を含む熟語の中に巧みに織り込んでおり、私たちはその中から日中両国の文化交流の歴史の脈絡に触れることができ、両国それぞれの文化の特徴とその同異点をはっきりと観察することができる。

現在、日中両言語における数字及び数字を含む熟語に関する比較研究はまだ学術界の広範な関心を得てはいない。日本側の研究の多くは通時的研究で、そ

の研究内容から見れば、主に数字の発展史に関する研究で、数字を含む熟語に対する研究は相対的に少ない。対照研究も主に日英両言語の面に集中している。中国国内では数字に対する研究が多少あるが、数字を含む熟語に対する研究の多くは意味と用法の面からなされたもので、認知的、文化的な角度からの探索・研究はまだ少ない。日中両言語の対照の面での論文も多少出てきているが、一般にみな一つあるいは数個の数字に対してなされた局所的な研究で、全方的、系統的な研究は未だ見られない。

李叶博士のこの本は学术界で初となる日中両言語における数字及び数字を含んだ四字熟語を専らの対象にして行われた対照研究の専門書である。本書はまず日中の数字「一」から「十」それぞれの基本義と派生義について対照を行い、日中両国の数字の共通点と異なる点を明確にしている。次にその「出典元」と「構造」について「一」から「十」の数字を含む四字熟語に対して分類、統計を行い、その全体的な状況を把握している。さらに、数字を含む四字熟語の比喩的意味が大部分それに含まれている数字の拡張義の中に見ることができ、それらの中に密接な関係があることを指摘している。引き続いてまた二つの数字を含む四字熟語に対して詳しく考察・分析を行い、熟語の中の二つの数字がその熟語に新しい意味を付与した事実を発見しており、独特の風格がある。

よって、私は本書を広範な読者と同業の専門家に推薦するものである。同時に李叶博士がこれを新たなスタートとして、学術研究においてさらに一步前進されることを願って、本書の序とする。

2018年11月6日

斬衛衛

大阪枚方市の関西外国語大学

御殿山キャンパス・グローバルタウンにて

前 言

在中日两国语言文化的发展长河中,数字的含义扩展与两国各自的历史、习惯、思维等文化要素有着紧密的内在联系。人们常将日常生活中的成功经验、失败教训、科学知识、文化体验等巧妙地编织进数字及含有数字的四字成语中去。一方面,由于中日两国有着两千多年的文化交流史,两国之间文化相似或共通之处甚多,数字及含有数字的四字成语同样也存在诸多相似或共通之处。另一方面,两国毕竟有各自的文化,地理环境、历史背景、风俗习惯等方面的不同造就了文化的差异,各自文化中数及含数四字成语之间也多有不同。

汉日两种语言有时使用相同数字表达相同的意义,如一石二鳥//一箭双雕、三人文殊//三臭皮匠等;有时使用相同的数字表达不同的意义,如一日千金 \neq 一日千金、一騎当千 \neq 一马当先等;有时使用不同的数字,表达相同的意义,如十人十色//一龙九种、二束三文//一文不值等。因此运用语言学、认知语言学及文化的观点研究中日两国语言中数字的扩展义与四字成语的比喻义是如何产生关联,研究两国的历史、习惯、思维等文化因素如何对含数四字成语产生影响,研究含数字四字成语如何在文化中得以体现等问题具有重要的意义。

本书主要围绕汉日两种语言中的数及含数的四字成语进行论述和分析,由13个章节构成。

第1章是序论部分,重点介绍了汉日两种语言中数及含数的四字成语的研究背景、研究范围、研究目的及研究方法等。

第2章主要就汉日两种语言中数及含数的四字成语的定义和其先行研究进行介绍。从语言学的角度来说,“数字”被称为“数词”,作为语言的一部分,数字不仅仅是数值的记号、数学中的概念,同时也是对人的世界观、人生观、价值观等各方面产生影响的一种象征。因此数字渐渐被神秘化了,不同的民族有不同的数字崇拜。本书采用“数字”这一概念。日语中四字成语的概念及范围规定并不明确,缺乏统一性,因此对既定类型的界定也比较困难。就日语中的四字成语来说,本书借鉴了

高岛(2009)的定义,进一步详细地说是以『新明解四字熟語辞典』(2013)对四字成语的分类为主,即源于中国典籍的成语、源于佛教典籍的成语、带有“之”的成语及日本自古就有的成语格言等。汉语方面则采用“四字成语”的概念,为方便起见,本书统一称“四字熟语”。

第3章至第12章主要结合语言学、认知语言学及文化学的观点,对汉日两种语言中含数字“一”至“十”的四字成语进行具体的对比分析。论述主要从四个方面展开。数字含义的扩展对含数四字成语中的数字本身及该成语的意义都会产生影响。因此首先就数字“一”至“十”的基本义及派生义进行分析,然后对汉日两种语言中含数字“一”至“十”的四字成语的“构成”进行分类统计,包括数字在四字成语中的位置及成语中数字之间的相互关系,并将统计结果图表化,以便从整体上予以把握。接着对汉日两种语言中含数四字成语的意义进行对比分析,分为含有同一数字意义相同或相似、含有同一数字但意义不同、一方含数字而另一方不含但意义相同或相似等三种情况展开,同时对含有两个数字的四字成语进行分析,考察四字成语中两个数字赋予该成语的新的意义。最后对汉日两种语言中含有数字“一”至“十”的四字成语是如何反映相关文化的,以及中日两国的历史、习惯、思维等文化要素是如何对含数四字成语的意义产生影响的等问题进行考察。

第13章是结论部分,主要对含数字“一”至“十”的四字成语的对比研究进行最后的总结。本书首先明确了中日两国数字“一”至“十”之间基本义和派生义的共同点与不同点。其次,从整体上把握了含数字“一”至“十”的四字成语的“构成”。最后,从含数四字成语的比喻义中可以看出其所含数字的扩展义,可见成语与数字之间有着很深的联系。此外,含有两个数字的四字成语,也因数字而被赋予了新的含义。以汉日两种语言中含数字“一”至“十”的四字成语为考察对象,通过对其含义、用法等进行对比研究可以看出,中日两国对数字的认识有着非常高的相似性,含有数字的四字成语在含义、用法及认知上都存在着诸多相似之处。

本书是以汉日两种语言中数及含数四字成语为对象展开对比研究的论著。撰写和出版过程中曾得到多方面的指导和帮助。尤其是靳卫卫教授,感谢他在我博士期间的悉心指导,并在百忙之中为本书作序。此外,仁田義雄教授、山梨正明教授、杜勤教授为本书提供了诸多宝贵建议,中村俊弘教授、福井祐介老师、幸丹丹编辑为本书审稿把关,在此表示衷心的感谢。本书为上海市高校青年教师培养资助计划重点项目(编号:ZZslg18023)的资助项目,书中较多例句引自北京日本学研究中心的中日对译语料库,在此也一并致谢。由于作者水平有限、时间仓促,若有疏漏不足之处,敬请各位专家学者批评指教。

初冬的上海,空气里已多是寒凉,怀念近十年的留日时光。本书的出版如若能抛砖引玉,使得学术界更多的研究者关注汉日两种语言中的数及含数的四字成语,并将相关研究推向深入,为两国之间的语言文化交流再架一座桥梁,便觉得温暖和欣慰了。

李 叶

2019 年底

于上海理工大学南校区

目 次

第 1 章	序論	1
1.1	問題提起	1
1.2	研究対象	2
1.3	研究目的	3
1.4	研究方法	3
第 2 章	用語の定義と先行研究	5
2.1	用語の定義	5
2.2	先行研究	10
第 3 章	日中両言語における数字「一」を含む四字熟語の対照考察	13
3.1	日中両言語における数字「一」の意味分析	13
3.2	日中両言語における数字「一」を含む四字熟語の構成考察	22
3.3	日中両言語における数字「一」を含む四字熟語の意味考察	28
3.4	数字「一」及びそれを含む四字熟語に関する日中文化	39
第 4 章	日中両言語における数字「二」を含む四字熟語の対照考察	45
4.1	日中両言語における数字「二」の意味分析	45
4.2	日中両言語における数字「二」を含む四字熟語の構成考察	49
4.3	日中両言語における数字「二」を含む四字熟語の意味考察	54
4.4	数字「二」及びそれを含む四字熟語に関する日中文化	60
第 5 章	日中両言語における数字「三」を含む四字熟語の対照考察	66
5.1	日中両言語における数字「三」の意味分析	66
5.2	日中両言語における数字「三」を含む四字熟語の構成考察	69
5.3	日中両言語における数字「三」を含む四字熟語の意味考察	76

5.4	数字「三」及びそれを含む四字熟語に関する日中文化	84
第6章	日中両言語における数字「四」を含む四字熟語の対照考察	90
6.1	日中両言語における数字「四」の意味分析	90
6.2	日中両言語における数字「四」を含む四字熟語の構成の考察	93
6.3	日中両言語における数字「四」を含む四字熟語の意味考察	98
6.4	数字「四」及びそれを含む四字熟語に関する日中文化	103
第7章	日中両言語における数字「五」を含む四字熟語の対照考察	109
7.1	日中両言語における数字「五」の意味分析	109
7.2	日中両言語における数字「五」を含む四字熟語の構成の考察	112
7.3	日中両言語における数字「五」を含む四字熟語の意味考察	118
7.4	数字「五」及びそれを含む四字熟語に関する日中文化	124
第8章	日中両言語における数字「六」を含む四字熟語の対照考察	129
8.1	日中両言語における数字「六」の意味分析	129
8.2	日中両言語における数字「六」を含む四字熟語の構成の考察	132
8.3	日中両言語における数字「六」を含む四字熟語の意味考察	137
8.4	数字「六」及びそれを含む四字熟語に関する日中文化	140
第9章	日中両言語における数字「七」を含む四字熟語の対照考察	146
9.1	日中両言語における数字「七」の意味分析	146
9.2	日中両言語における数字「七」を含む四字熟語の構成の考察	149
9.3	日中両言語における数字「七」を含む四字熟語の意味考察	153
9.4	数字「七」及びそれを含む四字熟語に関する日中文化	158
第10章	日中両言語における数字「八」を含む四字熟語の対照考察	163
10.1	日中両言語における数字「八」の意味分析	163
10.2	日中両言語における数字「八」を含む四字熟語の構成の考察	166
10.3	日中両言語における数字「八」を含む四字熟語の意味考察	170
10.4	数字「八」及びそれを含む四字熟語に関する日中文化	175
第11章	日中両言語における数字「九」を含む四字熟語の対照考察	182
11.1	日中両言語における数字「九」の意味分析	182
11.2	日中両言語における数字「九」を含む四字熟語の構成の考察	184
11.3	日中両言語における数字「九」を含む四字熟語の意味考察	189

11.4	数字「九」及びそれを含む四字熟語に関する日中文化	193
第 12 章	日中両言語における数字「十」を含む四字熟語の対照考察	199
12.1	日中両言語における数字「十」の意味分析	199
12.2	日中両言語における数字「十」を含む四字熟語の構成の考察	202
12.3	日中両言語における数字「十」を含む四字熟語の意味考察	206
12.4	数字「十」及びそれを含む四字熟語に関する日中文化	209
第 13 章	まとめ	213
	参考文献	219
	索引	225

第1章

序 論

1.1 問題提起

文字は文化の運び手である。文字がなければ、意味ある情報を記載することができず、文化を伝えることもできない。日本と中国との交流は紀元前後から始まったと言われ、最初に漢字が中国から日本に伝わってから、中国語のさまざまな四字熟語(ちなみに中国語においては“四字成语”という。本書では便宜上、「四字熟語」という表現に統一している)も徐々に日本に伝わっていった。漢字は表意文字であり、読み方が異なっても情報を伝えることができるため、日本語になじみやすかった。そのため、中国語における多くの四字熟語には日本語の中にもほぼ同じ表現がしばしば見られる。

本書では、そうした日中両言語における四字熟語の中でも、特に「一」から「十」までの数字を含む四字熟語を対照研究する。周知のように、数字を含む四字熟語は、人々の日常生活での成功経験、失敗から得た教訓、科学的知識、文化的体験などを巧みに織り込んで、作り上げられてきたものであり、日本語にも中国語にも数多く存在する。

ある日本のドラマで「お前自身を売っても二束三文にしかならんけどな。」という台詞があった。この場合、中国語では「二束三文」ではなく“一文不值”(一文の値打ちもない)という。また日本語では、どこにでもいる一般的な人のことを「熊公八公」というが、中国語では“张三李四”という。同じような意味の四字熟語であっても、異なる数字が使われるのは、両国でそれぞれ独自の数字文化が育まれてきたことが背景にあるとするなら、四字熟語における数字の使い方を調べることによって、日本と中国の文化の相違点と共通点を探る一つの切り口が見出される。数字は、単に数を表す文字でなく、それらに長い時間を経て豊富な認知的意味と文化的意味が付与されてきた。それらの数字に与えられた意味や価値、さらに伝承や宗教まで含めた古人の意識をさぐることも可能かもしれない。

日中両国には紀元前からの長い文化交流の歴史があるため、当然、両国の文化には類似点や共通点が多い。そのため、数字を含む四字熟語においても、その意味や用法において類似点や共通点が多い。たとえば、ほぼ同じ意味の四字熟語を日本語と中国語それぞれから挙げると、一石二鳥//一箭双雕、三人成虎//三臭皮匠、頂門一針//当头一棒、二股膏藥//脚踏二船、四字和平//四海升平、七歩之才//七歩为诗、八方美人//八面玲珑、九腸寸断//回肠九转、などとなる。いずれも同じ数字が含まれている点は興味深い。

一方で相違点にも注目すると、数字を含む四字熟語の意味や用法の面では、主に二つに分類することができる。一つは同じ数字^①を使って、異なる意味を表すもの^②である。例えば、一日千金≠一日千金、一騎当千≠一马当先、七転八倒≠七颠八倒、一長一短≠一长一短、二人三脚≠二人三足、一刀両断≠一刀两断、長舌三寸≠三寸之舌、朝三暮四≠朝三暮四、聚散十春≠十年生聚、などとなる。

もう一つは異なる数字を使って、同じ意味や類似した意味を表すもの^③である。十人十色//一龙九种、二束三文//一文不值、三日坊主//一曝十寒、武士二言//一言九鼎、遮二無二//不顾一切、四之五之//说三道四、二進三進//一筹莫展、一枚看板//金字招牌、岡目八目//旁观者清、総領甚六//傻瓜老大、六菖十菊//明日黄花、五花八门//多種多様、五湖四海//津津浦浦、乌七八糟//滅茶苦茶、などがその例である。

本書では、「一」から「十」までの数字を含む日中の四字熟語を対照しながら列挙し、それらにおける数字の拡張の意味と四字熟語の比喩的意味の関連性を分析する。それらの分析は、言語学的、認知的観点、及び文化的観点から行う。そして、日中両国におけるそれぞれの歴史、習慣、発想などがこれら四字熟語の意味にどう影響しているか、数字を含む四字熟語が文化をどう反映しているか、なども考察する。したがって本書は四字熟語を通して行う日中比較文化研究の一環と位置づけられる。

1.2 研究対象

数字を含む日中の四字熟語が本書の研究対象である。ただし本書ではすべての数字を取り上げるのではなく、日中両言語における「一」から「十」までの数字

① 同じ数字を使うだけでなく、四字熟語の表記が完全に同じものも含む。

② 同じ数字を使って、完全に異なっているものと、一部異なっているところもあれば重なっている部分もあるものを含む。

③ 日中両言語の一方で数字を使い、もう一方では数字を使わない場合も含む。

に限定し、それらを含む四字熟語の分析を進めていくことにする。

1.3 研究目的

本書では、主に次の4点について明らかにしたい。

- ① 日中両言語における「一」から「十」までの数字の意味拡張。
- ② 日中両言語における「一」から「十」までの数字を含む四字熟語の出典元や構成などの面から見た全体像。特に構成については、二つの数字を含む四字熟語の中で、それら共起する数字が生み出す新しい意味。
- ③ 日中両言語における「一」から「十」までの数字を含む四字熟語の、意味や用法における共通点・相違点。
- ④ 日中両言語における「一」から「十」までの数字を含む四字熟語の、日中両国文化への反映。またそれと逆方向に、それら四字熟語に対するそれぞれの文化の反映。

1.4 研究方法

本書では以下の4つの方法によって比較対照分析を行う。

① 数字の意味的拡張は、その語彙自体、ないしは数字を含む四字熟語の意味にも影響を与える。そのため、日中両言語における「一」から「十」まで、それぞれの数字の基本義と派生義をまず分析する。日中両言語における「一」から「十」までの数字の意味項目について、日本語では、『広辞苑』(1998)、『大辞林』(2006)、『国語大辞典』(1993)、『日本語大辞典』(1991)、『大辞泉』(2012)、『岩波国語辞典』(2011)、『国語辞典』(2006)、『新明解国語辞典』(2005)を主に参照する。中国語では、『現代汉语大词典』(2000)、《新华词典(修订版)》(2001)、《现代汉语辞海(全新版)》(2003)、《现代汉语词典》(2012)、《新现代汉语词典》(1992)、『簡約現代中国語辞典』(1996)、『中国語大辞典』(1994)を主に参照する。これらに記載された内容が本書の分析対象となる。

② 「出典」と「構成」については、日本語では三省堂の『新明解四字熟語辞典』第二版(2013)を基にし、中国語では商務印書館の《成语大词典》第二版(2012)を基にする。これらにより四字熟語を分類、統計し、全体像を図表化する。

③ 言語学および認知的観点にもとづき、a.両言語とも同じ数字を含み、同義・類義を表すもの；b.両言語とも同じ数字を含み、異義を表すもの；c.一方の言語で数字を含み、もう一方では異なる数字や文字で同義・類義を表すもの、に三分類し、分析する。

④ 以上を総合しつつ、日中両言語の数字を含む四字熟語が日中両国文化に

どのように反映しているかを考察する。また逆に、それぞれの歴史、習慣、発想などいわゆる文化的要素がそれら四字熟語に与えている影響も考察する。

第2章

用語の定義と先行研究

2.1 用語の定義

はじめに、本書における「数字」と「四字熟語」の定義を明確にしておく必要がある。本書では以下の通りに定義しておく。

2.1.1 数字

2.1.1.1 日本語における数字

『大辞泉』(2012)では日本語の「数字」を以下のように解釈している。

数字:① 数を表す文字。漢数字(一、二、三……)、アラビア数字(1、2、3……)、ローマ数字(I、II、III……)など。② (金銭、予算、統計など)数字で表される事柄。数値。③ 幾つかの文字。

漢数字とは漢字のうち、数を表す文字。一、二、三、十、百、千、万、億、兆など。壹(一)、貳(二)、参(三)、肆(四)、伍(五)、陸(六)などの文字を用いることもある。

2.1.1.2 中国語における数字

一方、『现代汉语大词典』(2000)では中国語の“数字”を以下のように解釈している。

数字:① 表示数目的文字。汉字的数字有小写、大写两种,“一、二、三、四、五、六、七、八、九、十”等是小写,“壹、贰、叁、肆、伍、陆、柒、捌、玖、拾”等是大写。② 表示数目的符号。③ 数量;数目。

言語学において数字は「数詞」と呼ばれるが、本書では特別な文脈がない限り「数字」と呼ぶ。言語の一部分でもある数字は、人類が長期間使ってきた過程